

MIDORI KITAKYUSHU みどり北九州



北九州緑化協会

発行所

一般社団法人 北九州緑化協会

〒802-0026 北九州市小倉北区大倉2-10-1

発行人/藤田良司 編集/広報委員会

TEL.093-482-2200 FAX.093-482-2210

e-mail : info@kita-ryokka.or.jp

ホームページアドレス : <http://www.kita-ryokka.or.jp>

第 **54** 号
令和4年
5月発行

- ◎ご挨拶
- ◎こちら公園緑地部 「曽根臨海公園の整備について」
- ◎環境と緑 令和3年度 公益活動報告
第13回 都市と自然の共生 シンポジウム
基調講演①
国内外のグリーンインフラの議論と産学官連携による推進
西田 貴明 京都産業大学生命科学部 准教授
基調講演②
都市縮退時代における都市のあり方とグリーンインフラの活用
高取 千佳 九州大学大学院芸術工学研究院 准教授
- ◎初めまして「〇〇」です
- ◎水野前会長ありがとうございます
- ◎グッドニュース
- ◎樹木医からの一言
- ◎令和3年度 協会活動報告
- ◎会員名簿
- ◎『響灘緑地研修館』貸出のご案内

ご挨拶



北九州市長 北橋 健治

一般社団法人北九州緑化協会の皆様におかれましては、日頃から本市の都市緑化や公園緑地の維持管理業務など多岐にわたり、多大なご尽力をいただいております。深く感謝申し上げます。

世界的に新型コロナウイルス感染症の脅威が続いており、社会や経済に大きな影響を及ぼしています。本市としても、新型コロナウイルスの感染拡大防止と社会経済活動の両立を図りながら、様々な事業を進めてまいります。

産業振興の面では、響灘地区での洋上風力発電関連産業の総合拠点化の取組が加速しており、西日本で唯一国から指定されている基地港湾の整備が本格化しています。また、国・福岡県と連携して、滑走路延長化（3、000m）の早期実現を始めとした北九州空港の機能強化に取り組むとともに、充実した陸海空のインフラを活かした物流拠点の形成など、本市の将来をけん引する戦略的なプロジェクトを推進します。

にぎわいの面では、今年の4月、八幡東区のスペースワールド跡地に、イオンモール株式会社を事業主体とする地域創生型大型商業施設「ジ アウトレット北九州」がオープンしました。また敷地内には、西

日本エリア初の体験型英語教育施設「KITAKYUSHUGLOBAL GATEWAY」と本市が整備を進める新科学館「スペースLABO」が開設され、開館20周年を迎える「いのちのたび博物館」とともに、このエリアが本市の新たな一大文化観光拠点となることを期待しています。

公園緑地事業では、到津の森公園が開園20周年、グリーンパークが開園30周年を迎える節目の年となり、各々の施設で周年イベントを開催する予定です。また、4月から夜宮公園内の「旧安川邸」において、管理運営事業者による運営が始まっており、新たな賑わい・観光拠点となるよう努めてまいります。

ポストコロナの新たな時代を切り拓く取組に挑戦し、「日本一住みよみまち」の実現に全力で努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人北九州緑化協会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



一般社団法人北九州緑化協会
会長 藤田 良司

令和4年度を迎えました。行政並びに市民の皆様、そして会員各位には日頃より当協会の活動に、ご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。心より感謝申し上げます。

一昨年から新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は留まることを知らず、未だに終息が見えません。このような状況下ゆえ我々、造園の現場に携わる業界の立ち位置を考えてみる必要があると思います。

造園業界は納税額が少ない割には税金を原資とする事業比率の高い産業です。受注する公共事業のお客様は誰でしょうか。当然お金を払う方、すなわち納税者の皆様が我々のお客様なのです。かのジョンFケネディ・アメリカ大統領は、国民に『国があなたに何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい。』と語りかけました。我々も市民の皆様に対して何ができるのかを共に考えてみませんか。

北九州市においても、近年多発する自然災害、人口減少・少子高齢化それに伴う働き手不足、公共施設の老朽化等々、持続可能な街づくりにとって多くの課題があります。そのため行政は、コンパクト・シティ化、施設マネジメントの強化、企業誘致、防災・減災など安全で住みやすい都市を目指す政策を計画し、それに取り組んでおられます。

我々は今一度、緑化・造園技術の研鑽に励みながら、適正価格・適正利益で業務の履行に務めなければなりません。また持っている技術を活用し社会に貢献することが必要と考えます。

その一環として、令和2年3月に福岡県内の造園4団体が結束し、河川工学の専門家である島谷幸宏前九州大学大学院教授を代表とする『福岡グリーンインフラ研究会』を立ち上げ、造園技術に基づくグリーンインフラ整備のあり方の検討や啓発・実践に取り組んでいます。

近年、北九州市内でも毎年のように崖崩れや浸水被害が発生するなど自然環境の悪化、さらにコロナ禍の影響による厳しい経済状況が続く今だからこそ、我々に何ができるか、何をなすべきなのかを一緒に考え、挑戦してみませんか。一人一社の思いと技術を束ねることにより世の為になる前向き、かつ実現可能な潮流を起こすことができると信じています。「住みたい街、住み続けたい街」北九州市を共に作りましょう。



曾根臨海公園の整備について

【沿革】

曾根臨海公園（愛称：曾根東臨海スポーツ公園）は、北九州市の東南部に位置し、曾根干潟に隣接する面積約10.2haの総合公園です。

旧北九州空港の移転に伴い、跡地利用を検討する中で、曾根干潟の貴重な自然と空港跡地の工業団地、住宅地を結ぶ緑地帯としての公園整備が計画されました。

一方で、北九州市東部には、大規模な大会が行えるような多目的グラウンドが少なく、平成24年度には、当時の自治会長を中心に陳情が行われました。

こうした背景をもとに、ソフトボール場が4面とれる多目的グラウンドと、幅広い世代が楽しめる遊具広場、野鳥を観察できる施設などを整備内容に盛り込み、事業に着手しました。

【環境】

曾根干潟は、カブトガニが生息し、ズグロカモメが飛来する、全国有数の干潟として知られています。野鳥愛好家や地域の方々の関心が高く、調査や研究を行っている有志の団体もあり、近隣の曾根東小学校では、干潟を利用した環境学習も実施されています。

また、曾根漁港や吉田漁港とも繋がり、貴



公園と曾根干潟

重な漁場でもあります。

このため、工事にあたっては、地域住民や漁協の方への説明を重ね、極力自然環境への影響がないよう努めました。

【整備状況】

平成27年度に実施設計を行い、敷地造成に着手し、多目的グラウンドや管理棟、駐車場の整備を進め、令和3年4月、暫定供用を開始しました。

多目的グラウンドは、ソフトボール場が4面とれる170m×170mの広さがあり、防塵や降雨後の早期回復を目的とした改良材を用いた真砂土舗装を行っています。

管理棟は、グラウンドの管理、運営のため、指定管理者が常駐しています。また、室内において、曾根干潟の自然や地域の歴史を紹介

するパネルや、地元出身で世界的にも有名な気象学者、藤田哲也氏の生い立ちをたどる展示を行っています。

常時駐車場として約120台分と、通常は芝生広場として利用できる臨時駐車場約120台分を整備しています。

令和3年度は、小学生以上を対象とした大型遊具と、幅広い年代が利用できる健康遊具を中心とした遊具広場等の整備を行っています。

令和4年度は、芝生広場や幼児を対象とした遊具の整備、植栽等を行うこととしています。

【今後】

敷地面積が広く、貴重な自然環境である干潟と隣接するため、安全管理や維持管理上の課題は多く、整備後も地域や各種団体との連携が重要と考えています。

令和3年度に暫定供用する際は、地域に親しまれる公園とするため、公園名のアンケートを行いました。曾根東校区約1,900世帯に行った調査で、572通の回答を得ました。この結果をもとに地域の代表と協議を行い、「曾根東臨海スポーツ公園」を愛称とすることと決定しました。

全体が完成した後も、市民に親しまれ、地域に根付いた公園となるよう、今後も努力していきます。

（記：建設局公園緑地部）



竜巻の藤田博士



カブトガニの展示



干潟の鳥類



第13回 都市と自然の共生シンポジウム

令和3年11月26日、協会研修施設『響灘緑地研修館』において、本年度第13回目となる標記シンポジウムを開催し、京都産業大学生命科学部准教授の西田貴明氏、九州大学大学院芸術工学研究院准教授の高取千佳氏にご講演いただきました。

講演の概要は次のとおりです。

基調講演①
「国内外のグリーンインフラの議論と産学官連携による推進」

京都産業大学生命科学部
准教授 西田 貴明氏



【GIという新たな政策概念】

グリーンインフラ（以下、GI）という言葉が出てきたのは2015年頃だが、近年その動きは急速に活発化している。GIとは「自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラや土地利用計画」と定義されている。

自然の機能を活用することは、造園関係では普通に実践されていることと思うが、

環境の分野でも同じく扱われてきた。また他分野でも、環境を守るため、防災のため、経済のため、とそれぞれの政策がとられてきたが、やや離れた位置にあった。だが地域活性化や防災の議論が深まる中で、「環境を活用することで社会・防災・経済に役立つこと」を一次的目標として設定し直し、それらを一つにまとめる新しい政策概念、GIが生まれてきた。

【GIの考え方】

次に、GIつまり自然の機能をどこに活用するかだが、地域の課題としては、人口減少・高齢化による担い手の減少と地域経済の停滞。環境の課題としては、気候変動による災害リスクの高まり。それらを全部つなげていく動きをしていかなないと、どれも解決しないだろう。自然資源を活用して他の課題を解決していくアプローチの創出、それがGIの考えであると思う。

またGIによる防災効果としては、緑地に水を貯めて降水や洪水による被害を抑えるという直接的な役割もあるが、災害リスクの高い所に人が住まないように自然の緩衝地域を設けて、災害リスクを下げるような、自然の特徴を活かした土地利用を促していくこともGIの考え方に含まれる。

【GIの方向性】

どんな社会を目指すべきかという時には、「都市」「農村」「流域」に分けて議論することが良い。

一つ目は「都市」で、「みどり」の活用による分散型の雨水管理が目指す姿として見えてくる。現在、都市洪水が色々なところで発生していて、その内水氾濫を防ぐため下水道を強化しているが、同時に雨水貯留に活用できる小さな緑地などを増やしていく。これらをネットワーク化して雨水管理の仕組みの中に入れることができると、都市に大雨が降った時、川にゆっくり流れていくことで全体の災害リスクが下げられる

ことが期待される。また、その緑地をイベント等の民間事業者、商店、あるいは観光と結びつけることにより、活用・管理する仕組みづくりを同時に行っていく。都市型水害を抑制しつつ景観が良くなって市民の活動も活発化し、外から来る人も増え、人の流れを増やしていく施策を一緒に行うことで地域が活性化し、結果的に「みどり」が増えていく仕掛け作り。これが都市型のGIのイメージだと思う。

もう一つは「農村」。郊外に広がる農村部において、農地や水田にGIの役割を造ることが進められている。「田んぼダム」とも呼ばれているが、水田に雨水を貯留することを含めて適切な管理をすることで、災害リスクを下げながらかつ環境にもよい地域づくりをすることで、「まち」も潤いつつインフラとしての役割も広がっていく。

それからもう一つは「流域」。流域治水にはより広いスケールでの取り組みが期待されている。今までの洪水対策では、雨水を川に早く流す為に堤防をしっかりと造ることが行われてきたが、GIの議論の中で、いろんなところに水を貯めて流域全体での水の流れをゆっくりにしていく仕組みを造っていく、という方向性が出てきた。

【GIの推進における課題と多様な主体の連携】

GIがなぜ進まないのか。お金がない、技術がないという前に、考えが共有・整理できていない、誰がどうやるか明確になっていないことがわかってきた。みんなの知恵を共有する場を活用し、官民含む多様な主体が連携して進めることが大事である。例えば雨水貯留花壇を造るとしても、ただ造るだけでは機能しない。社会の仕組みの中に入れていくには道路の管理者が必要かもしれないし、隣に住んでいる人の理解が必要かもしれない、あるいは商店の人など、あらゆる主体が一緒に管理・共有することができないとつまく活用されない。

GI研究会もそうだが、一つの業界や一つの学会だけでなく色々な組織が協働して立ち上げた。学会でも都市計画、造園、生態学、環境などいろんな研究者によるGIの研究と議論が必要と考える。

【防災からの流れ】

令和3年の4月に流域治水に関する法律ができた。河川だけに水を流して対応するのではなく、流域全体で雨水貯留を考慮して整備していくことが進められているが、まだ具体的にどういう運用をするかはこれからのことになる。ただ流域治水に関する法律の中にGIをしっかりとやりましようとして書き込まれている。防災上の文脈の中から、「みどり」をどのように活用し広めていくのか、GIの多機能性を考えることが大きな流れの一つになると思う。

国でも河川事業とGIをどのように繋げていくか研究されているが、地域の空間の中にも災害リスクは沢山ある。例えば、内水氾濫やエリアごとの細かい情報に対して、地域が「みどり」をどう使って防災に繋がっていくかは地域ベースで考えていく必要があることを、問題提起として挙げたい。

【生物多様性からの流れ】

もう一つの流れから、GIが一気に進むのではないかと思っている。それは生物多様性の文脈である。グラスゴーで気候変動の国際会議が開催されたが、企業は気候変動問題に対応せざるを得なくなってきた。今、大企業は自分の会社ごとどれくらい二酸化炭素を出したかや環境負荷を与えているかを情報開示しなければならぬ。それをしっかりと情報開示しないと投資家が投資してくれないような時代になっている。温暖化問題でも気候変動対策をどのようにやっているかを公表しなければならぬ時代になっている。

それを自然資本にも拡大しようとする動きが強まっている。経済活動は生態系を

用しているが、企業がどのくらい自然資本にインパクトを与え生物多様性に負荷を与えているか、もしくは依存しているかを明らかにしようとする流れが強くなってきた。機関投資家は情報開示をすでに生物多様性にも求めている。この流れがGIに大きな後押しをする可能性があると思う。

基調講演②

「都市縮退時代における都市のあり方とグリーンインフラの活用」

九州大学大学院芸術工学研究院
准教授 高取 千佳氏



【GIと景観生態学】

東京は高密度な市街地が広がる中に緑地空間が分布している。都市的な土地利用がなされているが、その背景を覗くと武蔵野台地を流れる神田川などの多様な流域が折り重なって、その地形に応じてグリーンインフラ（以下、GI）としての緑地が隠された構造として残っている。谷から湧水が流れて生物多様性の豊かなところがあったり、また崖線が都心部においても緑地として残っていて、人々にとって多様な機能やサービスを提供している。

そういった都市の中に眠っている土地の記憶としての景観とが流域とが、私たちがいる場所の記憶を読み取って、そこから次の世代につないでいく。ランドスケープ分野・景観生態学には、そうした強みがある。その強みを生かして、GIという生活・社会を支える基盤を創出していくことが改めて注目されている。

例えば東京都心部でみると、コリドーとなる河川や、パッチとなる緑地環境、さらに高密度な市街地の裏側に隠れているマトリクスとしての多くの豊かな自然・緑地がある。それらの関係性を分析しながら、どう

いった構造が都市に眠っていてその機能はどう変化したのかを読み解きながら、どういった緑地を創出したらいいのかを提案する。そういった人と生物・自然との相互作用、さらに都心部から農村部、森林部までの多様な時空間スケールを景観生態学は対象にできる。

【GIの必要性】

近年、気候変動を背景にした大規模な自然災害が、毎年のように世界各国で起こっている。生命を守ることで、また日常的にも豊かな環境を創出することで、いかに景観の構造を読み解きながら、その場にふさわしいレジリエント（柔軟性のあるor回復力のある）でサステイナブル（持続可能）な場所・地域を造っていくことが今、問われている。

この景観生態学という分野を学術的な下敷きに、地形、水系、緑地環境の関係性を読み解きながら、どのような都市環境をつくっていくのか。改めて戦略的GIの創出が重要である。

GIの定義として、日本学術会議から「自然環境を生かし、地域固有の歴史・文化、生物多様性を踏まえ、安全・安心でレジリエントなまちの形成と地球環境の持続的維持、人々の命の尊厳を守るために、戦略的計画に基づき構築される社会的共通資本」が出されている。災害大国日本において、人々が持続可能な生活や社会を営んでいくために、自然環境を生かしたGIが必要である。

【地域連携での合意形成】

あとは地区スケールの中でどこを優先的に保全すべきか、地域での連携また水平連携ということで、道路や下水道、また緑地分野や住宅分野で、地域全体としてのビジョンを描けるかという連携も大事である。GIに関しては新しい価値を何に見出していく

かは地域ごとに異なるので、地域で合意形成をしながら、どういった機能をより強みとして出していくのかが重要になる。またベネフィット（利益）だけでなくコスト面でも人口減少を見込んだ中で全体として投下できる、例えばマネジメントのコストが全体として削減されてくる中で、どこに優先的に配分するかの合意形成も必要である。そのためには、マネジメントするための主体や、合意形成するための主体をどのよう決定していくのか、マネジメントに誰が関わるのか、新たな需要の把握や、管理すべき土地とそういう人達を結びつけるようなマッチングの仕組みも必要になる。

【戦略的GIマネジメントへ】

これからの人口減少下においては、より戦略的なGIマネジメントが必要になる。これまでの都市拡大時代はどれも同じレベルの管理がされていたが、これからの縮退時代においてはすべての公平性を担保するのではなく、地域単位で合意形成していきながら、優先的に保全すべき防災・減災面で重要なエリアや、ある程度粗放化・自然化しても安全などに悪影響の出にくいエリアなど、管理の優先順位をつけていくことが必要になる。

また、スマート技術を取り入れて現状より低レベルの頻度の管理で済むようなエリア、また従来の管理が必要なエリア、別の用途に転換していくエリアなど、管理をコストとして捉えていくエリアと、管理自体が価値を創出するものと捉えてマネジメントしていくエリアなどに分類し、エリアに重みづけをして地域の中でメリハリをつけていくことが重要になる。

【都市農地の変化と人の多面的機能】

横張先生の「都市農地のモデル」によると、都市化するべき市街化区域と農地を残していく市街化調整区域が1968年に都市

計画法により定められたが、日本はその前から、もともと都市と農地が混じり合ったような都市形態をしていた。結果、都市（市街化区域）の中にも農地があったり、都市住民の中にも農家をされているところがあるなど、隣り合わせなのに実は分断されているといったようなことが今まで日本の都市空間では起きていた。

またコロナ禍以降に起きた変化として、テレワークなどの働き方の変化により生まれた時間、都市環境の中でも少し農作業をやってみたいとか、庭でガーデニングをしてみたいなど、緑地・農地への需要が増えており、住宅地での「農」・「緑」と都市住民との関わり方が多様化してきている。

これまで分かれていた農地と人がもう一度融合していく中で、例えば平日にテレワークした後に農業し出荷する「半農半X」とか、いろんな農業にかかわる形態も生み出されている。土地に対して多面的機能という言葉が使われるが、これからは人に対してもあてはまるようになってくる。

「百姓」という言葉があるが、もともと江戸時代から「百姓」さんは、平日は大工をしたり医者をしたりしながら農業もしていたと言われ、多面的機能を持っていた。近代化の中で分かれてきた土地の役割を、今度は人の方の多面的機能を発揮してもらいながら、人と土地をうまく繋いでいくような仕組みが必要になってくる。

※ご講演の抜粋です。全講演内容は、当協会ホームページから動画にてご覧いただくことができます。



初めまして「〇〇」です

(市職員の名前)

建設局公園緑地部みどり・公園整備課

奥田翔馬さん

初めまして、建設局公園緑地部みどり・公園整備課 奥田翔馬です。

2018年に入職し、昨年の4月に若松区役所まちづくり整備課から現職場に異動しました。

出身は北九州市のお隣、直方市で毎日近所の川や池で釣りばかりをしながらか育ちました。今ではフィールドを海に変え、うまい魚と大物を狙っております。

大学は、南九州大学の環境園芸学部に進学し造園の技能について学びました。北九州市には大学の先輩方が沢山活躍されており、先輩方と同じ環境で仕事ができているため、思い出話に花を咲かせてなど楽しい環境で働かせてもらっています。大学時代は日本庭園と吾に興味があつたこと、日本と中国の姉妹都市が多いことから、中国庭園と日本庭園をおりませた小規模庭園を制作しました。それと並行して苔の環境による灌水量の変化について調べたり、土壌中の自動灌水

設備の制作をおこないました。大学での知識を活かすことと、身近に触れられるものづくりをやりたいたと考え北九州市の造園職に入職しました。

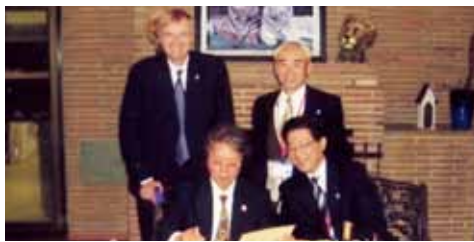
今の仕事は、私が今まで学んできた内容とは少しずれた所もあり、庭園と公園では思っていた以上に市民のニーズや環境が違っていた部分が多いと思うことも多々ありますが、自分の考えを形にしていく中でどのような目線で遊んでもらえるか、安全性を確保できるのかを深く考えながら、新しい遊び場を想像していくことにやりがいを感じます。現在の業務内容は、大規模公園の設計業務に携わっており、市民の方々により良い遊びを提供できるよう、日々頭を悩ませております。設計したものが形になっていく過程や感動は何度味わってもうれしく思いますし、子供たちがはしゃいで遊ぶ姿を見るたびにこの仕事に貢献できていることをうれしく思います。北九州市民の皆様が笑顔で遊んでもらえるよう、日々精進していきたいと思っております、よろしくお願いたします。



水野前会長 ありがとうございます

緑化協会の発展にご尽力いただきました!

令和3年6月16日開催の定時総会に於いて、平成15年より長きにわたり会長職を務められた水野貞明氏の会長退任が正式に決定しました。水野氏の退任を惜しまれる声もありましたが、数々の功績をあげられての退任となりました。当協会設立20周年の際には記念事業の一環として、姉妹都市のワシントン州タコマ市への日本庭園設計図贈呈に携わり、自ら現地にて作庭されました。また樹木医として、当協会員のために講習会等を開催し、後進の育成にも力を注いでいただきました。当協会の研修館の建設、一般社団法人化など、枚挙にいとまがないほどの腕前です。協会員一同、心より感謝しております。本当にありがとうございます。



タコマにて



水野貞明作「実物」

令和3年度 協会活動報告

令和3年

6月16日

定時総会を開催(会場:響灘緑地研修館)。令和2年度事業報告及び決算報告が承認、令和3年度の事業計画及び予算の報告がなされた。(総務財政委員会)

11月4日

旧安川邸庭園見学会を実施した。(参加者:20名)

11月26日

第13回「都市と自然の共生シンポジウム」を(一財)日本造園修景協会福岡県支部との共催で開催(総務財政委員会)

令和4年

3月2日・4日

福岡県立行橋高校よりインターンシップの受け入れを会員4社が受諾し、生徒12名が参加。



旧安川邸庭園見学会



インターンシップ

グッドニュース



当協会員三宮洋氏が『北九州技の達人』に認定されました。

当協会員の三宮洋氏（株）三宮造園土木 代表取締役）が、「第11回『北九州技の達人』」に樹木医として認定・表彰されました。

『北九州技の達人』とは、北九州市において、長年にわたり技能の研鑽、後進の育成に努め、優れた技能で産業振興や市民生活の向上に貢献している技能者として認定された方です。過去、当協会では、水野貞明氏（株）水野文化園 代表取締役）が第6回、小松奈津子氏（株）西日本緑化 代表取締役）が第8回で認定・表彰されています。

同氏は、樹木医・街路樹診断士の他、造園技能士、ビオトープ施工管理士などの資格も取得されており、会社経営の他、緑や造園に関する専門家として市民生活の向上や安全に貢献されています。今後ますますのご活躍を心より応援いたします。

樹木医 水野貞明からの一言

ベッコウタケ病

●街路樹、庭園樹、果樹など、さまざまな広葉樹の幹の地際部や根の腐朽を起す。

●幹の地際部や根についた傷から侵入し、主に心材部を腐朽させるが、時間が経過するにつれ辺材部や幹の上方にも腐朽は進展する。

●腐朽型は白色腐朽で、腐朽部と健全部の境界に暗褐色の変色域が形成されることがある。

●樹体内で腐朽が進むと樹勢は次第に衰え、葉の矮小化や早期の落葉が起こり、ついには枯死に至る。

●被害木の地際部には初夏～秋季に子実体が形成されるが、腐朽の進んだ樹木では大型の子実体が発生したり、多数の子実体が重なり合って発生する。

●子実体が発生した時点ですでに樹体内で腐朽が進行しているため、特に街路樹では幹折れなどによる事故が発生しやすいように注意する。

●被害木には往々にして刈払機によると思われる傷が存在するので、これらの部位に傷を付けないように樹木を管理することが必要である。

●担子菌類多孔菌目タマチヨレイタケ科に属する。子実体は一年生、発生初期は黄橙色のこぶ状を呈するが、次第に半円形に薄く広がり、直径3～20cm、厚さ0.5～5cmの傘を形成、しばしば複数の傘が重なり合う。

●傘の周縁部は薄黄色、中心部は薄茶色～赤褐色～黒褐色、環紋を形成する。

●傘肉は革質で強靱、薄茶色、子実層は管孔状管孔面は灰色～薄茶色。

●さまざまな広葉樹に発生する。ハリエンジュ、サクラ、ケヤキ、シイ、カシ類、カエデ類、タブノキ、ネムノキ、ユリノキ等。



子実体着生



ケヤキ、幼菌着生



ケヤキ、幼菌着生



心材腐朽(白色腐朽)



26

年間

●広報委員会

広報紙「みどり北九州54号」の編集作業及び協会ホームページの更新作業を行った。

●技術委員会

「フルハーネス型墜落制止用器具使用作業特別教育」を開催（計6回 延べ125名が受講）。

●青年部

北九州市立大学より「北方キャンパス屋外整備基本計画策定業務」を受託。

●支部活動

響灘緑地研修館の外構整備・管理を若松支部、八幡北支部が実施（6月19日、11月13日）。

●地域貢献活動

北九州市主催「第26回花と緑のまちづくりコンクール事業」（建設局主管）、「北九州エコライフステージ2021」（環境局主管）へ協賛。



フルハーネス特別教育（講義）



フルハーネス特別教育（実技）

支部	商号	所在地	TEL・FAX	支部	商号	所在地	TEL・FAX
門司	九州環境土木(株)	800-0112 門司区大字畑 46	481-3484 481-3483	八幡南	(有)岡野造園土木	807-0845 八幡西区永犬丸南町 2-13-38	613-3804 611-2952
	(有)西新緑地建設	800-0114 " 吉志 5-12-10	481-5467 481-5476		(有)河村造園	807-1153 " 岩崎 4-1-34	618-7170 618-7515
	(有)豊西緑地開発	801-0823 " 春日町 25-24	341-3456 342-1111		(株)後藤緑化建設	807-1143 " 楠橋南 2-11-19	618-5384 618-6707
	(有)松本造園建設	801-0811 " 大字大積 666-8	341-1501 341-1502		(有)サン緑化	807-1114 " 吉祥寺町 7-40	618-1567 618-4684
	(株)水野文化園	800-0112 " 大字畑 46	481-4600 481-4680		(有)田代造園	807-1262 " 野面 740-1	617-1792 617-4518
	(株)門司造園	800-0101 " 大字伊川 504-9	481-2918 481-2630		東洋緑地(株)	807-0854 " 泉ヶ浦 2-22-41	883-8972 883-8855
	(有)門司緑地土木	800-0101 " 大字伊川 504-1	481-1897 481-1993		(株)中川碧水造園	807-1125 " 池田 2-1-3	618-0822 618-6101
	(株)青葉造園	802-0023 小倉北区下富野 5-1-3	522-0234 533-7922		平方晴宏園	807-0075 " 上下津役 3-20-24	612-5677 612-5701
小倉北	(有)アートグリーン	802-0033 " 富野台 11-8	533-3735 452-1340	(有)医生ヶ丘産業	807-0803 " 千代ヶ崎 3-1-6	601-8688 601-5338	
	朝日工産(株)	803-0853 " 高尾 1-38-5	592-4910 592-4261	(株)折園	807-0863 " 大膳 1-14-22	601-1528 691-3063	
	内山緑地建設(株)北九州支店	803-0841 " 清水 1-12-15	581-2741 571-5392	(株)九州緑化建設	806-0055 " 幸神 4-4-3	642-1267 641-0859	
	(株)梅田造園土木	803-0861 " 篠崎 3-22-5	592-0516 592-0520	(株)古賀造園	807-0806 " 御開 3-1-5	601-0495 601-9574	
	岡崎建工(株)	803-0846 " 下津 5-9-22	581-4327 581-4632	(有)清水造園	806-0047 " 鷹の巣 2-6-30	631-0694 631-0703	
	北九州東部緑地管理(株)	803-0814 " 大手町 5-23	591-1487 591-1489	(有)千成造園土木	807-0875 " 浅川台 1-8-1	603-8050 603-8071	
	(株)九州造園	802-0026 " 大島 2-10-1	531-6121 531-6123	大成緑地建設(株)	806-0055 " 幸神 2-5-17	641-7113 647-5177	
	(株)九州緑化産業北九州支店	803-0856 " 弁天町 5-8	561-9027 561-9208	(有)古門造園	806-0013 " 清納 2-8-19	616-7118 616-7119	
	(株)西日本緑化	803-0836 " 中井 3-3-15-107	581-4128 561-5476	(有)山代造園土木	807-0852 " 永犬丸西町 2-1-10	693-9718 693-9706	
	(有)緑地管理中山工房	803-0835 " 井堀 4-2-16	776-1483 613-0447	(有)渡辺造園	807-0826 " 丸尾町 11-3	602-8336 602-8362	
	青葉緑地建設(株)	802-0826 小倉南区横代南町 3-12-15	962-6175 962-6904	遠藤土木(株)	808-0142 若松区青葉台南 2-4-14	742-0331 742-0332	
	(株)環境造園	800-0207 " 沼緑町 1-19-15	471-6390 472-4070	(株)オーエヌグループ	808-0121 " 大字竹並 3037	741-0648 742-0370	
(有)協同造園土木	800-0207 " 沼緑町 1-8-75	473-1509 473-3911	岡崎造園(有)	808-0001 " 小石本村町 2-1	771-9255 771-8580		
(有)グリーンカンパニー	800-0228 " 長野 1-8-22	474-5677 474-5733	荻迫緑化	808-0146 " 高須西 2-6-17	741-6816 741-6819		
グリーン・ライフ(株)	802-0826 " 横代南町 5-5-1	230-0472 230-0137	(有)三司緑化建設	808-0106 " 片山 1-2-33	701-1565 791-7955		
小倉南	小倉造園(株)	802-0821 " 横代北町 5-22-36	962-1136 962-1046	(株)三宮造園土木	808-0104 " 畠田 3-4-12	701-0422 791-9223	
	(有)小倉南緑地	802-0979 " 徳力新町 1-15-23	963-0769 961-5649	(有)洞北緑地建設	808-0133 " 大鳥居 14-2	741-1820 741-1848	
	総合緑地建設(株)	803-0261 " 大字合馬 301	453-1678 453-1677	日本緑営(株)	808-0104 " 大字畠田 943-1	791-0440 791-0441	
	(有)林造園	803-0261 " 大字合馬 981	451-1876 451-1819	賛助会員			
	(有)日浦緑地建設	800-0201 " 上吉田 2-15-33	473-5296 473-5256	商号	所在地	TEL・FAX	
	豊州造園建設(株)	800-0242 " 津田 5-9-24	473-6967 473-8084	(株)成光社	803-0853 小倉北区高尾 2-5-33	561-1821 561-1820	
	(株)みらい	800-0222 " 中曽根 3-7-32	472-5999 472-4999	総合園材(株)	812-0882 福岡市博多区麦野 3-18-20	092-588-9088 092-588-9220	
	(株)守恒造園建設	802-0986 " 志井鷹羽台 4-3	962-4211 962-4272	日本乾溜工業(株)	806-0046 八幡西区森下町 27-36	631-0237 622-2357	
	山本興業(有)	803-0261 " 大字合馬 234-1	451-2312 451-2312	(株)グリーンマテリアル	800-0212 小倉南区大字曾根 3958-1	967-7328 967-7329	
	東戸	(株)グリーンニッポ	805-0017 八幡東区山王 3-14-28	662-3201 671-1423	編集後記		
阿部緑花(株)		804-0091 戸畑区三六町 7-3	881-7686 647-6233	世界から入ってくる情報に触れると、どうしてこうなったって事 がおおいですね。人は過ちを繰り返すとはいいますが、なにゆえに ……。歴史というとてもとても貴重な資産をいただきながらも、繰 り返す…悲しいあらい。人の歴史をみればそうなることも証明さ れているようでせつないですね。イデの発動だけはおこらないこと をねがいます。(富野の終末は遠慮したい)(H.H)			
菅原造園建設(株)		804-0094 " 天神 2-2-21	883-1120 883-1121				

緑について気軽にご相談ください。

一般社団法人北九州緑化協会 
TEL:093-482-2200 または **093-482-8018**

『響灘緑地研修館』貸出のご案内

『響灘緑地研修館』は、公益目的の研修活動であれば協会会員以外の方もご利用いただけます。詳しくは協会ホームページをご覧ください。

所在地 北九州市若松区大字安屋 900 番地 11
 電話：093-482-8018 FAX：093-482-8019
 E-mail：info@kita-ryokka.or.jp



編集後記

世界から入ってくる情報に触れると、どうしてこうなったって事
 がおおいですね。人は過ちを繰り返すとはいいますが、なにゆえに
 ……。歴史というとてもとても貴重な資産をいただきながらも、繰
 り返す…悲しいあらい。人の歴史をみればそうなることも証明さ
 れているようでせつないですね。イデの発動だけはおこらないこと
 をねがいます。(富野の終末は遠慮したい)(H.H)